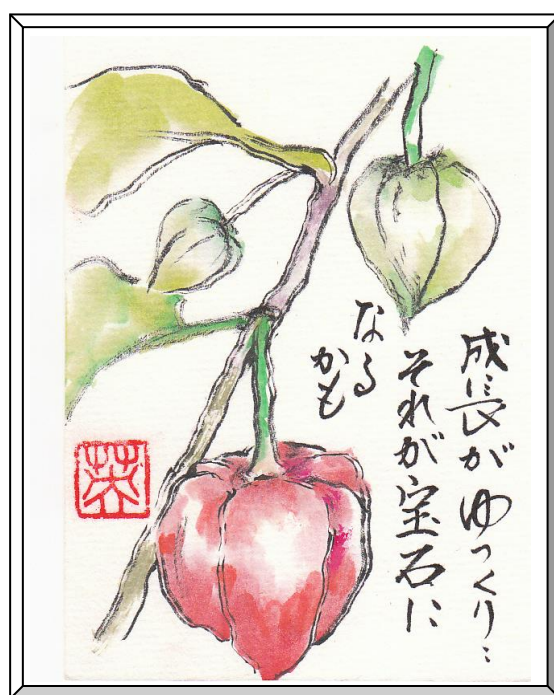


Ⅲ 人権教育の指導資料

実践事例



(ホオズキ)

「班の仲間との時間を共有しよう！（さいころトーキング）」

所要時間 45～50分

対象 小学校中学年以上

ねらい

対人関係

・信頼して、自己開示する。

決断と問題解決

・選ぶことの意味を理解する。 ・自分の意志で選択することの大切さに気づく。

進め方

導入

展開

振り返り

活動の流れ（指導者の教示、子どもの反応・行動）	留意点
●ウォーミングアップ「日本語ビンゴ」 ①4×4マスの用紙を用意する。 ②「好きな食べ物」を16マスに書き込む。 ③指導者から順に「好きな食べ物」を発表する。 「私の好きな食べ物は○○です。△△さんの好きな食べ物は何ですか？」 ④順に好きな食べ物を発表しながら指名していく。 ⑤たて・横・斜めがそろったらビンゴ！ ●日本語ビンゴは、簡単なゲームだが、誰が何を言うか楽しみでもあるし、つながりを感じることでできるゲームでもある。 ●今日の目標 中学校に入学して2ヶ月半。新しい班の仲間に自分のことを知ってもらうゲームをします。さらに、自分の中のどんなことをみんなに知らせるのか、自分で選ぶスキルもみがいていこう。	○全員が楽しくゲームに参加できるよう配慮する。 ○今日のねらいを板書して、印象づける。
●『さいころトーキング』その1（浅めの自己開示） ①さいころをふる。 ②シートにある、出た目の数について一人一人話をする。 ③同じ目が出た場合は、班でパスするかどうか話し合って決める。 ④全員がゴールすれば完了。 ●『さいころトーキング』その2（やや深い自己開示） （さいころシートを代えて実施）	○うまく話せない内容については話せる範囲でよいことを確認する。 ○困っている児童生徒がいる場合は、アドバイスする。
●感じたり、考えたりしたことを振り返る。 ◇ふり返しシートに記入する。 ●全体で共有する。 ◇可能な範囲で発言する。 ●（感想をまとめ、指導者が、ワークしている中で気づいたこと、がんばったことを伝える。） ●今まで知らなかった仲間のことを、少し知ることができた。みんながんばって自分を開き、自分のことを話すことができた。何を話そうか、自分の中にあるいろいろなことをふりかえりながら、短い時間の中で決めて、みんなに知らせることができた。「自分を自分で振り返り、自分で選んだことを発表する」というスキルを学ぶことができた。 ●これから、班の仲間と協力して、取組をすることがたくさんあるが、もっともっとお互いの理解を深められるように話をしていこう。	○静かに記入する時間にする。 ○多様な意見を取り上げる。 ○工夫したり、悩んだり、がんばっていたことを評価する。 ○自己開示、自己選択のスキルアップに取り組んだことを評価する。

留意点等

○活動の流れは、中学校1年生1学期の人間関係づくりの学習第2時として考えられたものであるが、小中学校の各学年の発達段階に応じ、内容・時間等を工夫して取り組むことができる。

（大阪府松原市立松原第七中学校の実践より）

さいころトーキング 1

1 わたしの好きな食べ物は

2 わたしの好きな芸能人は

3 最近ハマっていることは

4 好きなテレビ番組と言えば

5 行ってみたい場所があるの

6 好きなスポーツや選手は

さいころトーキング 2

1 最近感動したこと

2 自分の長所&短所はねえ

3 将来の夢はこれ！

4 最近ショックだったこと

5 願いが一つかなうとしたら

6 自慢できること

「よろしく！こんなわたしです（すごろくトーキング）」

所要時間 45～50分

対象 小学校中学年以上

ねらい

- 対人関係
・信頼して共同作業を進める。

進め方

導入

展開

振り返り

活動の流れ（指導者の教示、子どもの反応・行動）	留意点
●新しい班が決定。仲間と力を合わせて協力し、仲間との関係を深めることを目標に、いくつかのエクササイズに挑戦していこう。 ●ウォーミングアップ「絵しりとり」 ・班に5枚、6枚の紙とペンを渡し、班で絵を描きながらしりとりをしていく。 ・何を描いたかは、話さない。 ●班で1周したら、全員で交流。 ・各班の作品を紹介する。 ●絵しりとりをして、班でつながりを感じることができたんだろうか。今日は、新しい班の仲間ともっとつながっていけるようになるワークをしてみよう。	○学期の活動の流れ、目標を伝え、自分たちの課題を考える時間をとる。 ○画用紙、ペン ○今回の学習のねらいを伝える。
●『すごろくトーキング』第1ゲーム ①さいころをふって、出た目の数だけコマを進める。 ②止まったコマに書いてある質問に答える。 ③ゴールした人は、ゴールしてない人が答えた時、ひと言感想を言う。 ④全員がゴールすれば完了。 ●『すごろくトーキング』第2ゲーム。 （すごろくシートを代えて実施） ●今、すごろくトーキングで、班のみんなに自分のことを少しだけ語った。お互いに、今まで知らなかったことを少しだけ知ることができた。相手のことをもっと知りたいと思っている人もいるだろう。今日は、お互いを知り合う初めの一步。これをきっかけに、班の仲間の新しい一面をいっぱい発見していこう。	○班活動を確認しながら、つまっている場合はアドバイスする。 ○コマの選び方や、進め方に注目する。
●感じたり、考えたりしたことをふり返る。 ◇ふり返りシートに記入する。 ●（指導者が、エクササイズ中に気づいたことを伝える。） ●「すごろくトーキング」などのエクササイズをしながら、班やクラスの仲間のことを知っていくことは楽しい。今まで知らなかったことに気づいたり、発見したりすることは楽しい。でも、エクササイズをしなくても、毎日一緒に過ごしていれば、たくさんの気づきがある。相手のことをしっかりと見つめ、語り合うことで、個性や頑張りが見えてくる。今日のエクササイズをきっかけに、お互いの理解を進めていこう。	○今日のエクササイズは仲間づくりの第一歩であることを確認し、これからの班での仲間づくりが大切であることを伝える。

留意点等

- 活動の流れは、中学校1年生2学期の人間関係づくりの学習第2時として考えられたものであるが、小中学校の各学年の発達段階に応じ、内容・時間等を工夫して取り組むことができる。
（大阪府松原市立松原第七中学校の実践より）

私の誕生日	通っていた幼稚園 保育所	体育大会の一番の思い出	初恋はいつ？	担任の先生に一言	直したいくせ	自分を動物に例えたら
得意な料理	休み時間していること	今ほしいもの				校外学校での心配事
苦手なこと	心に残るニュース	楽しみなこと				好きな言葉
得意なこと	家での習い事	気になること	不思議な体験	中学卒業したら	行ってみたいところ	最近のマイブーム
好きなテレビ番組	苦手なスポーツ	好きなスポーツ	苦手な教科	得意な教科	苦手な食べ物	好きな食べ物



フォトランゲージ（写真合わせ）

所要時間 20～45分

対象 小学校高学年以上

ねらい

- 様々な状況の中で共に生きている人々の姿や思いに関心をもつ。
- 写真合わせをする活動によって、コミュニケーションをとる楽しみを知ったり、自分の見方に思い込みがあることに気づいたり、人によって見方・考え方が違うことのよさに気づく。

準備

- ・様々な状況の中で共に生きている人々の写真や絵を半分に切ったもの（学習者の人数分）
- ・写真の簡単な説明文を印刷した資料（学習者の人数分）

進め方

導入

展開

振り返り

活動の流れ（指導者の教示、子どもの反応・行動）

- 1 写真（絵）を半分に切ったものを児童生徒の人数分用意し、活動内容を説明する。
 - ・半分の写真をよく見て、どんな内容か想像する。
 - ・あと半分を持っている人をさがす。
- 2 学習者に一人一枚ずつとってもらう。
- 3 「よく観察してみよう。想像してみよう。」
（誰が何をしているところか、どんな気持ちか、残りの半分はどんな写真か等）
- 4 あと半分の写真を持っている人を探す。2人組になって、前の席から座っていく。
（写真を見せ合わずに、コミュニケーションを取りながら相手を探す方法もある。）
- 5 初めに写真と出会った時の感想や、自分が予想したことと比べ、どうだったか、お互いに感想を出し合う。
- 6 感想のいくつかをペアで発表してもらう。
 - ・人によって見方・考え方が違うことや、そのよさについて確認する。
- 7 写真を黒板に貼る。いくつかの写真について説明をし、今後学んでいく人権課題について紹介する。
 - ・様々な状況の中で、困難やハンディを乗り越え、一生懸命生きている多くの人たちがいることを確認する。

留意点等

- 児童生徒の発達段階に合った写真を用意。
- 写真の裏側に番号を入れておき、写真の説明資料には、その番号ごとに簡単な説明文を作っておく。
- 写真の裏側に磁石を付けておくと、黒板等に張って掲示し、その後の話し合いに活かせる。
- フォトランゲージを導入として、個別の人権課題についてさらに学習を深める流れが考えられる。

人権かるたを作ってみよう

所要時間 45分～90分

対象 小学生以上

ねらい

- 人権かるた取りをしたり、人権に関係するかるたの標語を作ったりすることにより、身の周りにある人の優しさに気づく。
- かるたの標語を発表し合うことを通して、様々な見方・考え方を知る。

準備

- ・人権かるた（グループに1組）
- ・人権かるた標語一覧（一人1枚）
- ・ワークシート 白紙の読み札 札を作る用具 筆記用具（個人）

進め方

導入

展開

振り返り

活動の流れ（指導者の教示、子どもの反応・行動）	留意点
1 1つのグループが5、6人になるようにする。	○かるた取りをしない場合は、3の活動に進む。
2 人権かるた取りの遊び方を伝えて、かるた取りを行う。	
3 人権かるた標語一覧表を配り、気に入った標語を選ぶ活動。 「人権かるたの標語の一覧表を配りますので、気に入った標語を選んでみましょう。後で、班の中で、選んだ標語と選んだ理由を発表してもらいます。」 ○どの標語を選んだのか、理由と一緒に発表する。	○うまく標語が作れないときは、「あいさつ」「ありがとう」「おかあさん」「おじいさん」など、キーワードを出す。
4 5・7・5で人権標語を2つ作る活動。 「身近なところであった『よかったなあ』『うれしかったなあ』ということをもとにして、人権かるたになるような標語を作ってみましょう。」	
5 どのような標語ができたか、班の中で発表し合う。 「どのような標語ができたか、班の中で発表しましょう。発表するときには、どのようなできごとから標語をつくったか発表しましょう。よいと思った標語を紹介してもらいますので、代表作品を決めておきましょう。」	
6 班の仲間が作った標語を、クラス全体でふりかえる。 「班の中の作品で、よいと思った標語とその理由を紹介してください。」	
7 ワークシートに感想を記入します。	

留意点等

- かるた取りをした後に、自分なりの標語（読み札）を作る活動である。時間があれば、かるたの絵札も作る活動も計画できる。

ワークシート「人権かるたを作ってみよう」氏名

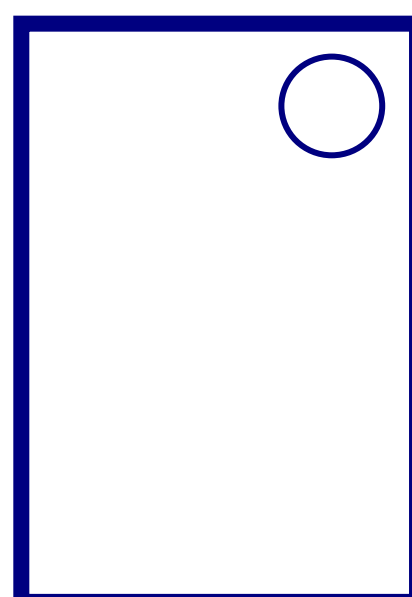
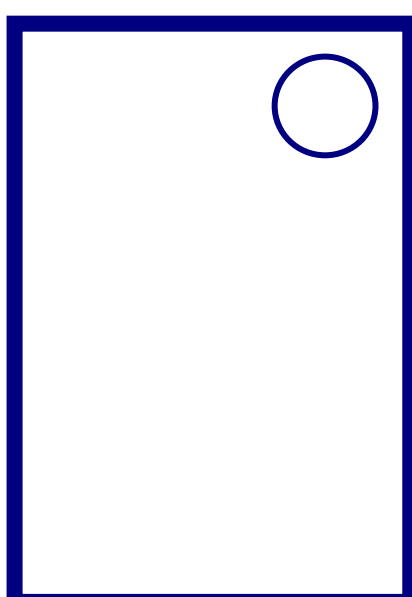
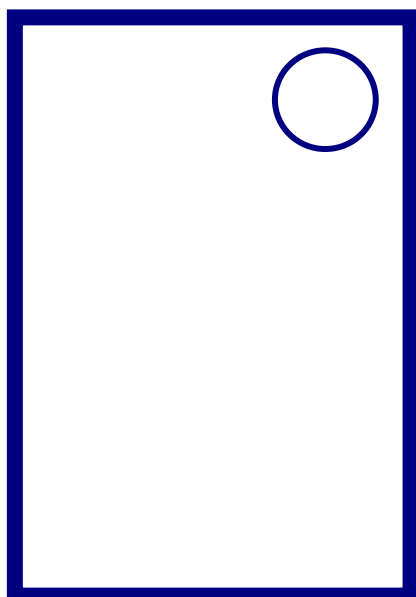
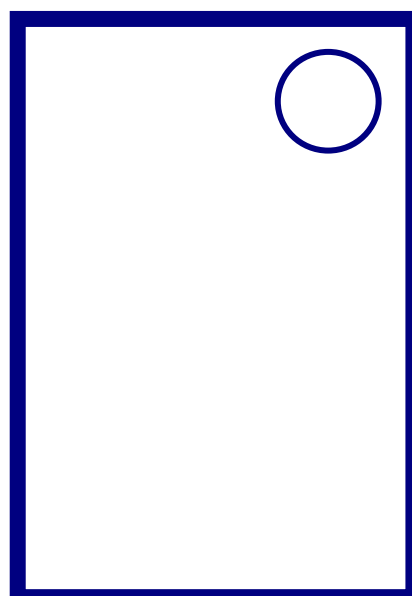
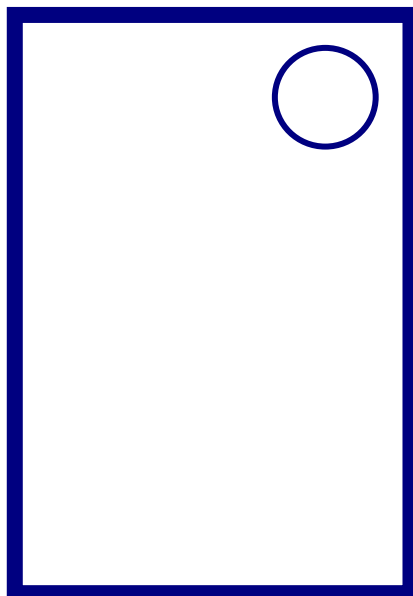
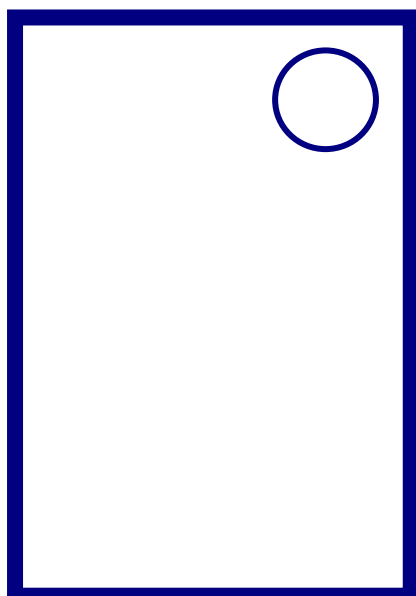
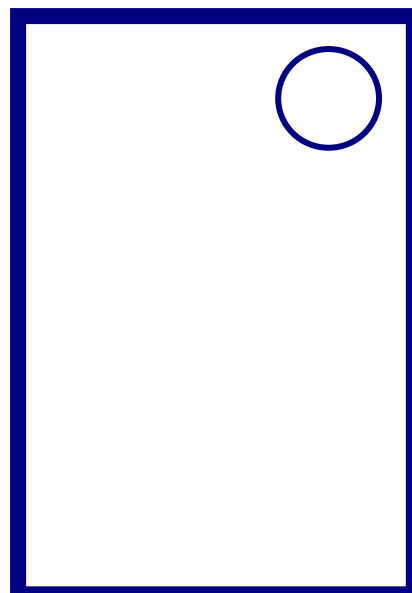
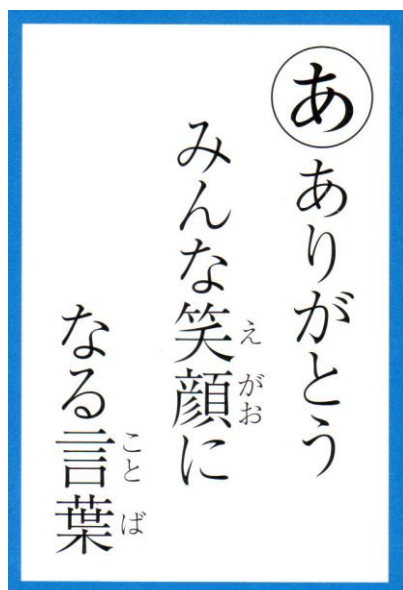
気に入った標語

気に入った理由

標語を作ってみましょう。この標語を作った理由も書きましょう。

活動をふりかえりましょう。

ワークシート 「読み札」 「取り札」



【参考】

【「人権かるた」取りをするときに、あらかじめ考えていただきたいこと】

- 1 参加者全員が楽しみながら「かるた取り」ができるようにしましょう。
- 2 取った枚数を競うより、「どの言葉が心に残ったか」を大切に進めましょう。
- 3 「人権かるた」の言葉を味わうために、かるた取りを始める前に、裏面にある「読み札一覧」表をグループごと（できたら個人）に配っておくとふりかえりのときに役立ちます。
- 4 下の【ルール】をあらかじめ確認し、心温まる場面が見られた場合には、その様子を紹介しましょう。
- 5 終了したら、みんなで「頑張った姿」「いいなと思った姿」を発表し合うことを参加者に確認しておきましょう。
- 6 終了後、「もう1回やろう」という気持ちになれるような雰囲気づくりをしていきましょう。

【カルタ取りのルール（例）】

- 1 手はひざの上もしくは床の上に置きます。全員がその状態になったら、読み手が読み始めます。
- 2 「を」の札は、「を 人権を 守る決意を 語り合おう」のように、「を」と言ってから、札を読みましょう。
- 3 お手つきは1回休みにします。
- 4 同時に札に手をついたときは、年少者が優先、同じ学年なら枚数の少ない方、それも同じならジャンケンで負けた方がかるたを取るようにします。
- 5 札が見つからなかった場合には、そのまま次へ進みます。後で見つかったら札を裏返しておきましょう。
- 6 取り終わったら、自分の取った札や読み札をながめて、どの札が心に残ったか振り返ってみましょう。
- 7 グループ全員の札を見て、それぞれの言葉のよさや共感できる言葉を話し合しましょう。

人権かるたの作成：平成20 年度人権教育推進のための調査研究委員会

（平成20年度委員会構成…国立信州高遠青少年自然の家・伊那教育事務所・飯田教育事務所・

松本教育事務所・伊那市伊那公民館・諏訪市教育委員会生涯学習課）

★「人権かるた」は、各教育事務所、各教育会等で、貸し出しをしています。

人権かるた 読み札一覧

あ	ありがとう みんな笑顔に なる言葉	小学1年生
い	いやがらせ されて気づいた 相手のいたみ	中学2年生
う	うれしいな ドアをおさえる あなたの手	小学6年生
え	笑顔はね みんなの心を つなぎます	小学6年生
お	お年寄り 今度はぼくが やさしくしたい	小学5年生
か	かざらずに 自分らしく 生きていく	中学1年生
き	教室の 一人ぼっちを なくそうよ	中学1年生
く	くじけそう 仲間といっしょに がんばれた	小学5年生
け	敬老に 孫から届く メッセージ	一般
こ	困ったら お互い様だよ 助け合い	中学1年生
さ	さあどうぞ ゆずりゆずられ ハッピーデー	小学5年生
し	白いつえ 教えてあげる 点字道	小学5年生
す	すぐそばに 助けてくれる 人がいる	中学2年生
せ	世界中 手をつないだら 平和の輪	小学5年生
そ	それいいね 人の意見も 大切に	中学3年生
た	大切に 自分の名前 一人だけ	小学4年生
ち	聴導犬 耳の代わりに がんばっている	中学3年生
つ	伝えよう 心あたたまる 感謝の気持ち	一般
て	手伝うよ 心がかよう 手が動く	一般
と	友だちと 並んで歩く 帰り道	小学5年生
な	仲間って 一生ものの 宝物	小学5年生
に	人間は やさしい心 持っている	小学5年生
ぬ	ぬかされても お先にどうぞ ゆずりあい	小学5年生
ね	ねえちょっと いじめなんかして 楽しいの？	小学5年生
の	野の花の 美しき姿 それぞれに	一般
は	話そうよ やさしい言葉で みな笑顔	一般
ひ	人はみな 言葉がちがえど 同じ人	中学3年生
ふ	ふと気づく 人のやさしさ 思いやり	高校2年生
へ	偏見を なくす努力が 社会の宝	一般
ほ	ほっとする やさしい言葉と きれいな言葉	一般
ま	負けないで 君の笑顔が 応援団	小学3年生
み	みんなとは ちがっていいよ あたりまえ	小学4年生
む	胸のうち 話して楽に なる心	小学4年生
め	メールよりも 会って伝える 感謝の気持ち	一般
も	もう一度 君のところへ ありがとう	小学4年生
や	やめようよ 勇気を出して 言ってみよう	小学3年生
ゆ	ゆずり合う 心がつくる 明るい社会	小学5年生
よ	よく話し いつも仲よし 家族の輪	小学4年生
ら	らんぼうな 言葉は自分も きずつける	小学2年生
り	理解しよう 人の心の いたみをね	小学4年生
る	ルールには ひとつひとつに 意味がある	中学生
れ	連絡を 取り合い家族は いつでもいっしょ	一般
ろ	論より実践 人権守る	一般
わ	輪のように みんなの心 つなごうよ	小学6年生
を	人権を 守る決意を 語り合おう	一般
ん	うん いいよ うなずく君の あたたかさ	一般

ウハウハ

所要時間 25分

対象 小学校高学年以上

ねらい

- 少数派であること、多数派であることを体験する。
- 多数派である時には気づけなかった少数派の気持ちを理解し、公正な社会について考える。

準備

- ・「命令カード」（2種類）を参加者全員分用意する。
- ・「命令カード」には多数派カードの中に、まったく違う動作をするように指示された少数派カードが1割程度入るようにする。
- ・カードは、キリトリ線に沿って短冊形にする。（カードの中に「ウハウハ」「ンゴンゴ」「クスクス」「ヘラヘラ」「シラシラ」の5つの動作が書かれているように切っておく。）

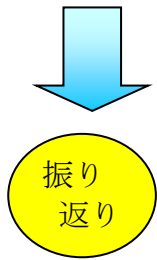
進め方

導入

展開

活動の流れ（指導者の教示、子どもの反応・行動）

- 1 必要に応じて、グループ分けをする。
大人数でも可能だが、お互いの表情を見ながら進めたいと思うときは、10人程度のグループで行うとよい。
- 2 命令カードを全員に配る。配る際に、自分のカードを他の人には見せないように伝える。
- 3 進行上の約束事を確認する。
発問：約束事は、次の3つです。
「一つめです。これから、私がカードのある『ウハウハ』『ンゴンゴ』『クスクス』『ヘラヘラ』『シラシラ』という言葉に順に言っていきますので、みなさんは、カードに示されたとおりの動作をしてください。」
「二つめです。できるだけ大きな動作をお願いします。」
「三つめです。でも、どうしてもカードのとおりの動作ができないと感じた場合は、無理に行わなくても構いません。皆さんの動作を見ていることも立派な参加の方法です。気楽にやりましょう。」
- 4 活動する。
 - ① 『ウハウハ』の動作をする準備ができていることを参加者全員に確認し、指導者のかけ声で、一斉に動作をする。
 - ② 以下、『ンゴンゴ』～『シラシラ』まで、同時に行う。



5 学習の振り返りをする。

- ① 活動終了後に、少数者カードを引いて参加した人のおかげで、学習が成立したことを確認して、全員でお礼の拍手をする。
- ② 感想を発表し合うとともに、次の観点なども含めて振り返りをする。
 - ・人と違ってしてしまうことを、間違いだと思ってしまうことがあるか。
 - ・日常生活において、少数派になることはあるか。
 - ・少数派にとって、多数派の言動や態度はどう感じられるか。
 - ・多数派でいると気づけなかったり、平気でしてしまったりするようなことはないか。

留意点等

- 命令カードの内容（動作）は、参加者の年齢や状況によって十分吟味し、場合によっては、内容を大きく変えることが必要である。少数派を誰にやってもらうかについても検討が必要である。子ども、保護者、教職員と一緒に学ぶ学習会において、少数派の役を大人が行う方法も考えられる。
- 人は命令されて行うのであれば、非人間的な行動もしてしまう可能性が心理学の実験等で指摘されている。振り返りの中で、多数派の中から「少数派に対して厳しい動作だったが、悩みつつも行った。」というような感想が出た場合は、それに関わって、同じような危うさが私たちの生活の中にも潜んでいることはないか（いじめ等）を考えることで、さらに学習を深めることも可能である。

引用・参考文献：「人権教育ファシリテーターハンドブック」

第3章 プログラムで活用できるアクティビティ30選

特定非営利法人 国際理解教育センター（E R I C）

〒112-0011

文京区千石 4-42-2

T E L 03-6304-1991

F A X 03-6304-1992

ワークシート

「命令カード」

【少数派カード】

ウハウハ 困って頭をか く。	ンゴンゴ 不思議に思っ て首をかしげる。	クスクス 困惑して引っ 込み思案に手を 引っ込める。	ヘラヘラ うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	シラシラ 違う行動をし ている人を指し て笑う。
----------------------	----------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	-----------------------------------

【多数派カード】

ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。

この線で切り取って短冊形にして使用します。

異文化への理解

所要時間 90分

対象 小学校高学年以上

ねらい

○世界の人々の中には様々な感じ方や考え方があることや、日本に住む外国から来た人達が抱える問題について考え合うことを通して、様々な立場の人とふれあい、助け合うことのよさに気づく。

準備

- ・絵または絵の写真（内容は留意点に記載）
- ・各自色鉛筆、A4白紙
- ・啓発ビデオ「ソーテサワサワ～人間の価値はみな同じ～」
- 企画：長野県同和教育推進協議会 制作：信越放送（SBC）株式会社

進め方

導入

展開

振り返り

活動の流れ（指導者の教示、子どもの反応・行動）

- 「色鉛筆を使って、次の6つのものの絵を描いてください。」
（技術的な優劣を見るものではないことを伝え、自分の思い通り描かせる。）
①1本の木 ②りんごの色 ③みかんの色
④太陽の色 ⑤虹の色の数 ⑥月の色
- 教師の示した絵（写真）と比べて感想を出し合う。
- DVD「ソーテサワサワ」を見る。
- 主人公の小林フィデアさんが、様々な体験をし、その時にできることを行動に移すことで、差別に立ち向かっていることや、フィデアさんを支え共に生きる人たちの存在に気づかせる。
- 「学習を通して気づいたこと、感じたことを発表しましょう。」

留意点等

○指示して描く絵について

指示	生徒が描くと予想される絵	教師が事前に用意しておく絵、または写真	備考
①1本の木	緑豊かな木	緑豊かとは限らない	
②りんごの色	赤	緑（フランス）	外国の絵本等が参考になる。
③みかんの色	オレンジ色	茶色も含む色（欧米）	
④太陽の色	赤	黄（欧米）	
⑤虹の色の数	7	5～6（欧米）	7（フランス）
⑥月の色	黄	白（欧米）	

○『「言葉がわからない」体験ゲーム何が起こった？（震災編）』（（財）滋賀県国際協会発行）を導入の学習で活用する方法もある。